

外典には旧約聖書の外典と新約聖書の外典があります。

まず旧約聖書についてです。わたしたちが普段手にすることの多い聖書(新共同訳聖書・新改訳聖書・口語訳聖書)を見てみますと、旧約聖書は 39 の書からなっています。これはヘブライ語聖書として伝えられたものです。

しかしヘブライ語聖書(旧約聖書)からギリシア語に翻訳された「七十人訳聖書」の中には、ヘブライ語聖書には含まれない書物もありました。それらの書を旧約聖書の「外典」と呼びます。

旧約聖書の外典は、教派によって用いるところもあります。わたしたち聖公会も礼拝の中で用いています。新共同訳聖書には「続編つき」というものも出版されており、その「続編」と呼ばれている部分が、旧約聖書の「外典」です。

聖公会では旧約聖書の外典(続編)を、「教会は生活上の模範、道徳上の教訓としてこれらの書を必ず読む。ただし、それらを根拠としていかなる教義も立てることはしない」と位置付けています。

それに対し、新約聖書でいう「外典」は、いうなれば「偽典」です。最終的に正典文書とみなされなかったものを指すのですが、その多くは正統的教会に対立する異端的なグループによって編集されたと考えられています。

しかし中には史的価値の高い文書や、その文書によって初代教会や異端グループの対立状況が読み取れるものもあります。

ヤコブの原福音書やトマス福音書など、新約聖書の福音書に記されていないイエス様の生涯が書かれている文書もあり、その信憑性は低いものの、興味をそそられます。

次回は「解放」です。お楽しみに。



「発見されたユダの福音書の
写本の最初のページ」

これは、生けるイエスが語った、隠された言葉である。そして、これをディディモ・ユダ・トマスが書き記した。

(トマスによる福音書 序)

